

ひまわりからの メッセージ

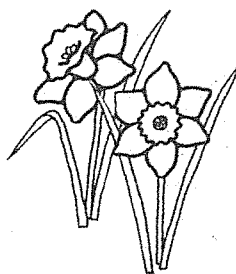
103号

2020.2.10

NPOひまわりの花内
西濃圏域
発達障がい支援センター

発行人: 中野たみ子

異変



今年は今全く雪が降りません。スタッドレスタイヤを新調した私としては少し残念なのですが、移動は楽だし、心配しながら早朝に起きて外の様子を見ることも要りません。その分、気分が何となくだらけている様にも思います。

わが庭(と言っても雑草苑ですが)にも、今年は今異変が見られました。毎年、秋には杜鵑草(ほととぎす)の葉が毛虫に食い荒らされてしまうのですが、今年はどういうわけか、佗助の葉がもの見事に無くなったのです。虫を見つけて出して退治してやろうと思いつつ、忙しさにかまけて放っておいたところ、三本の佗助の葉は全て無くなってしまっ。今は花だけが咲いています。葉のなくなった佗助は何とも可笑しく、全く別の花のようです。

オーストラリアの山火事にしても、新型コロナウイルスの猛威も地球規模で異変が広がり、私たちに警鐘を鳴らしている

ように思えてきます。

そういえば子ども達の世界にも変化が見られます。昨今は表出言語(ことばで表現すること)の弱い子どもたちが増えてきているのではないだろうか。

「話しことば」と「言語理解」は、よく氷山に例えられます。水面上に現れた氷山は話しことば、水面下の大きな氷の塊は言語理解ととらえられるのです。つまり「ことばの理解を」知っていることばの「数(語い数)」と置きかえてみると、知っていることばの数が少なければ、当然、表現する力も落ちてくるということになります。子ども達とかかわってみると、物の名称を正しく言えなかったり、動作を表すことばや形容詞の理解などに困っている子どもたちに驚かされます。様々なことばを駆使して、自分の気持ちを表現することができなければ、暴言ともとれる短い単語で表現するしかありません。「そんな事を言ってるか、メー！」と叱るよりも「う」という言い方もあるよ。「う」と言えはいいよ。」と教えていくのは大人の役目じゃないかなあと思うのです。

人の話に耳を傾けて聴くことが下手になった大人達と表現が苦手な子ども達と……さてさて、これからこの社会はどの様に変化していくのでしょうか。身の廻りで様々な異変を感じているこの頃です。

DCD (発達性協調運動障害)を

知っていますか？

「発達障害」という言葉がよく知られるようになり、ADHD(注意欠如多動症)やASD(自閉スペクトラム症)LD(学習障害)などに対する支援が広がってきています。

そして、療育の場に理学療法、作業療法、言語療法など今まで病院で行われていたものが入ってきて、児童通所事業所に根づいて来ているようです。その背景には、DCD(発達性協調運動障害)の問題があります。

アメリカ精神医学会の診断基準(DSM

15)によると、DCDを次のように記しています。

・協調運動技能の獲得や遂行が、その人の生活年齢や技能の学習および使用の機会に応じて期待されるものより明らかに劣っている。その困難さは、不器用(例、物を落とす、または物にぶつかると)運動技能(例、物をつかむ、はさみや刃物を使う、書字、自転車に乗る、スポーツに参加する)の遂行における遅さと不正確さによって明らかになる。

・運動技能の欠如は、生活年齢にふさわしい日常生活活動を著明および日常的に妨げており、学業または学校での生産性、就労前および就労後の活動、余暇、および遊びに影響

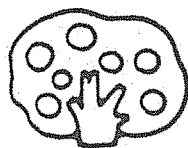
響を与えている。

そして、症状の出現が発達段階の早期であること、運動技能の欠如が知的障害や視力障害、神経疾患(脳性まひや筋ジストロフィー)によるものではないとしています。

乳児期の気づき・その後

- ・寝返りの仕方や非定型のはいはい、粗大運動の微妙な遅れ
- ・姿勢のコントロールが不十分
- ・指の使い方(物の操作)の獲得が不十分
- ・摂食行動が未完成
- ・感覚過敏の存在、生理的モニターの鈍さ

その後の影響



- ・座位が不安定↓手を支えに使う↓バランスの悪さ
- ・道具の使用で両手を使わない↓扱えるものが少なくなる
- ・握り方が未完成↓拇指対立(つまむ)ができない↓書字障害
- ・摂食行動不完全↓食事が苦痛↓偏食
- ・バランスの悪さ↓運動が苦手
- ・はじめのことは苦手(練習すれば出来ることもあるが練習しても出来ないこともある)↓自己評価の低下
- ・経験不足になる↓ますます出来なくなる

今まで余り取り上げられてこなかったDCDですが、ASDと重なっていたり、ADHDやLDとも関連しています。発達の早期に気づいても、単に不器用なだけだと考えられてしまうこともあるでしょうが、幼児期から様々な体験をしていく中で獲得していきけることも多いと思います。

DCDは運動が複雑化していくと、どのように練習していいのかわからなくなったり、日常生活動作の獲得が難しかったり、物を落としたり片づけができなかったり……と、成人になってからの問題が大きくなっていきます。そして、就労し、自立した生活が要求されてきたときに問題が表面化してきます。

- ・家事労働ができない
- ・計画的な生活ができない
- ・健康管理ができない
- ・犯罪に巻き込まれやすい
- ・就労がつかない

(身だしなみ、作業ができない、自分に合った職業選び、体力が続かない、職場の人関係等々)

大人になってからの困りを予測して、どうしていくと良いのか、考えていくことが必要になってきます。特に発達障害のお子さんには、自然に覚えることが苦手な場合が多く、教えていかないとそのまま分らない状態がつかっていきまます。

発達障害の子が

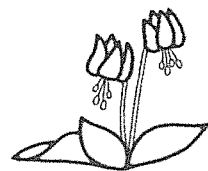
自然に覚えるのが苦手なこと

- ・体の使い方、道具の使用、生活動作
- ・顔を見ながら話を聞く
- ・椅子に座って話を聞く
- ・言われたことにタイミングよく答える
- ・長い話に集中し続ける
- ・動き回っているたくさんの人を見分ける
- ・複数の人が話している時、誰に話しかけているのかを理解する
- ・長時間体を動かさずにいる
- ・パニック時の自覚と気持ちの切り替え方
- ・他人から自分がどう見られているかモニターする

(石川道子先生講演資料参照)

生活の中に在る生きていく力

自分のお子さんが、園や学校で支援や配慮が必要だとわかった時……その時から、将来自立していくための力を育てていくことを考えてみませんか？ 保育園や、こぼの教室や学校や放課後等、デイサービス等々、お子さんの成長・発達について一緒に考えてくれる所はたくさんあります。もちろん、私達のセンターもその一つです。でも、子ども



達が将来生きていく力をつけていくのは、家庭という生活の場なのです。

「うちの子は、生活面は自立しています。」と思っておられるお母さん、小・中学生のお子さんのチェックをしてみてください。

- ・帰宅したら、かばんや持ち物は所定の位置に置く？
- ・靴下など脱ぎっぱなしにしない？
- ・ゲームの時間は決まっていますか、守ることができる？
- ・あいさつは出来ますか？
- ・パンツやシャツなど着るものは自分で用意する？
- ・入浴の時、脱いだものは所定の所に入れる？
- ・入浴のとき、自分の体が自分で洗える？
- ・髪のお手入れなど洗える？
- ・洗たくされた自分の服を片づけられる？
- ・目玉焼きなど簡単なものなら作ることができる？
- ・学校に持っていく持ち物の準備はできる？
- ・ゲーム以外に遊べるものがある？
- ・欲しい物がすぐ買えなくてもがまんできる？
- ・お金の使い方は身につけてきている？
- ・人との距離感をとれる？
- ・善悪の判断はできる？
- ・自分の気持ちや考えを表現できる？

ざっと思いつくままに記述してみました。実はこれらのことは、とても大切なことなのです。

保護者の方は「勉強」を第一に考えられることが多いように思います。学校の先生方の中にも「この子は勉強ができるのでサポートブック(スマイルブック)は不要でしょう」とおっしゃいます。しかし、そうではないのです。

生きていく力は、大きくなれば身につくというものではありません。幼児期から積み重ねていくものでしょう。

子どもを愛し、大切に思うからこそ、王子様王女様に育ててしまったり、将来子どもが困ることになります。ましてお母さんがお子さんの家来のようになってしまったり、将来の自立など夢物語になってしまったりすることでしょう。

日々、多くの子どもたちや大人の方々の相談にのりながら、これからの社会はどうなっていくのかなあと感じます。「自分でできることは自分でやる」。そういう基本が失われていくようだと心配です。DVDから話題が広がってしまいましたが、不器用さだけでなく、もう一度生活を見直してほしいなあと願っています。

お知らせ

三月の親の会は三月九日です。場所は、奥の細道記念会で行います。